

# 重要 !!

## バクチャーについて

### はじめに

この度はバクチャー製品をお買い上げいただき心より感謝申し上げます。

はじめにバクチャーを上手に活用していただくために大切なポイントをお伝えします。

バクチャーとは、その場にいる微生物を活性化し、汚れの原因物質(糞尿、残餌等)を分解する技術です。

**Back to the nature** 名前の由来の通り、バクチャーとは「自然に戻す」という意味です。

水槽の中でも自然界に近い環境を作り出すことによってバクチャーの効果が最大限発揮できます。

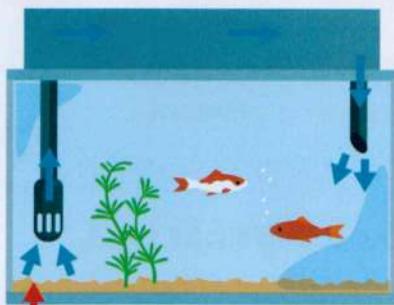
### バクチャーを水槽で使う場合大切なポイントが4つあります！

#### ① 水の動き：循環ポンプなどで水が絶えず動いていること

自然界の水は絶えず動いています。水槽の中でも水を循環させて動かすことで微生物が働きやすくなり、水質浄化しやすくなります。水槽の中で水の動きがない箇所を極力減らすことが鍵です。

#### バクチャー使用方法

<https://youtu.be/cZFCiidwi44>

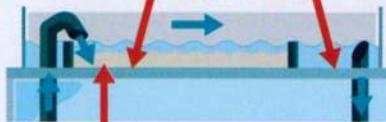


底砂1cm以下(微生物の住処)

※底砂が厚すぎると水の流れが悪くなり、  
水質悪化へつながります。

#### ●上部フィルター

バクチャーは常に水が動く所へ設置  
どちらでも可



ウールマット(微生物の住処)  
※洗いすぎには注意! 茶色くなるが、  
年に3回程度の掃除でOK!

#### ② 微生物の住処：底砂・ウールマットなどのろ材の設置

川や海の底には石、砂利、草や木の根など微生物が住む場所がたくさんあります。

しかし水槽は四方がガラスで、微生物が住み着くことが難しいため、底砂やウールマットの設置をおすすめします。

#### ③ 薬剤は使わない

バクチャーは微生物による水質浄化法です。

水質調整剤、カルキ抜き、その他の薬剤や調整剤などを使うと微生物が死滅し、効果が十分に発揮されない場合があります。

#### ④ 最初に水槽、底砂、周辺機材の掃除

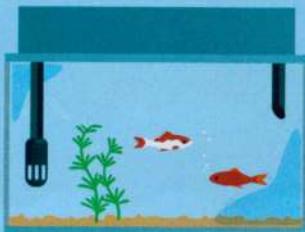
新規・既存水槽どちらの場合でも最初に十分な掃除が必要です。



## その他注意事項

### ● 水の動きは全体が動くようにしましょう

吸入口と吐出口を対角線に設置しましょう。すると水が  
良く動きます。



### ● 魚体の多さ

観賞魚の水槽の中は自然界で比べると、魚が密集して暮らしている状態です。  
魚にも水にもかなりの負荷がかかります。なるべくスペースに余裕を持たせて飼育しましょう。

### ● 餌の与え過ぎ

バクチャーユニットを使用の水槽は、餌食いが非常に良くなります。  
水質悪化に繋がるため餌の与えすぎには十分ご注意ください。  
※すぐに食べきれる量だけ与え、食べきれない餌は取り除いてください。

### ● フィルターの汚れ

バクチャーユニットを使用の水槽で微生物が増えてくると、フィルターが徐々に茶色くなっています。  
これは汚れではなく微生物が定着し始めた証拠ですので、取り替えや洗いすぎには十分注意してください。

### ● 苔や藻

バクチャーユニットは自然を再現するものなので光があたる所では苔や藻が多少生えます。  
防ぎたい場合は、光を遮るようにしてください。  
苔や藻を食べる貝やエビをいれてもいいです。

### ● 吸着剤の使用はご遠慮ください

吸着剤に溜まった汚れは定期的に掃除をしないと水質の悪化の原因になります。

## バクチャーユニットの水槽の特徴

### ● 生体

水が綺麗になることで元気になり餌食いも良くなります。

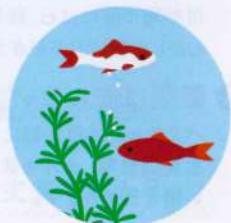
### ● 産卵

水が綺麗になることで生体が健康になり、産卵をしやすくなります。

### ● 水質

硝酸塩が蓄積され硬水の部類に属します。

※硝酸塩や硬水で影響が出る生体飼育は、水は汚れていませんが  
2～3ヶ月で半分程度の水換えをお勧めします。



# 重要 !!

バクチャー使用方法

<https://youtu.be/cZFCiidwi44>



# 水質浄化活性石バクチャー 使用説明書

※上部フィルターをお勧めしていますが、その他フィルターでもご使用できます。

※水中フィルターはお勧めしておりません。

## 水槽を新しく設置する場合

※新しい水槽・ろ材・床材は、有機物が付着しているので、水道水で十分洗浄してご使用ください。

■水槽をセットして「バクチャー」を水流のよく当たる所に設置後、生体を入れずに1週間位（海水の場合は2週間）運転してください。光沢のある水に変化してきます。（変化しない場合、有機物が付着している可能性がありますので2／3程度新しい水に入れ換えて、運転してください。）

■その後生体を入れ、3日間は餌を与えないでください。

※3日間は目安です。水槽の状況・水質によってその期間も変わりますので、魚臭の無い光沢のある水に変化するまでは餌を与えないでください。（この期間は微生物が繁殖し活発に活動を始めるための大切な期間です。この期間をしっかりと持つことで浄化環境が整います。）

※生体を入れる場合は、十分に水合わせをした後、最初に2～3匹入れ様子を見てください。

## すでに水槽を設置している場合

■水槽またはバケツなどを用意し、生体を移動させてください。

■フィルターやろ材・床砂・周辺機材を十分洗浄してください。

■水槽をセットして「バクチャー」を水流のよく当たる所に設置後、生体を入れずに1週間位（海水の場合は2週間）運転してください。

■その後生体を入れ、3日間は餌を与えないでください。

※3日間は目安です。水槽の状況・水質によってその期間も変わりますので、魚臭の無い光沢のある水に変化するまでは餌を与えないでください。（この期間は微生物が繁殖し活発に活動を始めるための大切な期間です。この期間をしっかりと持つことで浄化環境が整います。）

※生体を長期間移動できない場合30分以上運転させ、十分に水合わせをした後、生体を入れてください。

※特に汚れた水にはアンモニアなどが多量に含まれていると思われます。このように汚れのひどい水は、「バクチャー」の働きによりアンモニアなどが分解され水質が変化するため、生体に悪影響を与える場合があります。水換え及びフィルターのろ材・床砂を十分洗浄してから「バクチャー」を設置してください。

※運転後、ろ材、ポンプ等の周辺機材などが掃除不足のため濁った場合、再度1／2程度の水換えをしてください。「バクチャー」が立ち上がるまで数回水換えが必要になる場合があります。

## ■注意事項

### ■用法・用量をお守りください。

淡水用バクチャー：水量60ℓ仕様（例：水量120ℓの場合2個）	※30ℓ以下には使用しないでください。
海水用バクチャー：水量60ℓ仕様（例：水量120ℓの場合2個）	※30ℓ以下には使用しないでください。
バクチャー20：水量20ℓ仕様(淡水用)（例：水量40ℓの場合2個）	※20ℓ以下には使用しないでください。

- バクチャ一本体は決して洗わないでください。浄化能力を阻害する場合があります。
- 袋に残った黒い粉末は、水に混ぜてから水槽内に投入してください。
- ポンプが目詰まりすると水流がなくなるためバクチャーが機能しません。  
目詰まり、故障等がないようしっかりとメンテナンスしてください。
- セラミック、活性炭など、多孔質の吸着材の使用はご遠慮ください。
- カルキ抜き、水質調整液、PH調整剤、その他浄化剤・浄化液は併用しないでください。微生物が死滅して浄化が阻害されることがあります。
- 紫外線その他、殺菌効果のある物（UV殺菌灯など）は使用しないでください。  
微生物が衰弱あるいは死滅し、浄化・活性化が阻害される場合があります。
- 液肥や肥料・CO<sub>2</sub>の与え過ぎにはご注意ください。浄化・活性化が阻害される場合があります。
- バクチャーの設置後、フィルターの掃除やろ材の掃除は2～3ヶ月はお控えください。  
定着している微生物や、定着しかけた微生物を洗い流してしまう恐れがあります。  
フィルター、ろ材の掃除は3～4ヶ月を目安にし、軽く水洗いをしてください。
- 気温の低い時期（水温が低い時）の過剰なエアレーションにはご注意ください。  
観賞用としてエアーを大量に送る場合は、微生物の働きが活発化し、水質が安定してからご使用ください。
- 流木を使う際はよく使い込んだ物をご使用ください。新しい物を使うと水が変色する場合があります。
- バクチャー使用の水槽には、自然界に存在しない物の投入は、お控えください。  
浄化が阻害される場合があります。
- 蒸発による水量の減少には水道水を追加してください。（カルキ抜きは必要ありません。）
- 急激な水質の変化に耐えられない病弱な魚などは死ぬ場合があります。充分な水合わせをお願いします。
- 1年経過後、水は汚れていませんが、半分程度の水換え及び、「バクチャー」の交換をしてください。
- 本品は食品ではありません。お子様の手の届かない場所に保管してください。
- 保管する場合は、直射日光を避けて常温で保管してください。

### ■餌について

- 餌によっては、投入後数時間～半日ほどで、極端にPHを変化させてしまう物もあります。一般的な浄化法では頻繁に水換えを行うため、餌による水質の変化はあまり問題にはなりませんが、水換えの頻度が極端に少ないバクチャーシステムの場合、餌による水質の変化は、微生物の活動に悪影響を与え、それがそのまま水質悪化につながります。

## 簡単なチェック方法

コップに水を入れ試験紙でPHを計ります。次に餌を入れてよくかき混ぜ、そのまま半日放置します。その後再度PHを計り、極端に値が変化しているようであれば、その餌の使用は中止してください。

## ■餌の与えすぎの現象

- 餌の残りカスが沈殿、蓄積。
- フィルターに虫が湧く。
- 急に餌食いが悪くなる。
- 生体に元気がない。通常とは違う行動が見られる。
- 病気にかかりやすくなる。

※上記の現象が見られた場合、1／2程度の水換えをし、給餌を止めて様子を見てください。

## 失敗事例のご紹介

### 1. 十分な清掃がされていない

水槽、フィルター、底砂には有機物や汚れが付着しています。

付着物は微生物の働きを阻害します。また、微生物が汚れを分解する際に亜硝酸や硝酸塩が出るため、生体にも悪影響がでます。

しっかりと水槽、フィルター、底砂を水洗いして有機物や汚れを洗浄してから使用してください。

### 2. 水が出来上がる前に生体を入れてしまう

新規の立ち上げの場合はバクチャーを設置して水を1週間運転してから生体を入れます。

1週間経たないうちに生体を入れると立ち上げに失敗してしまいます。

### 3. 汚れを吸着しきった吸着剤（セラミック等）が使われている

吸着剤に蓄積された汚れはバクチャーで活性化された微生物では分解することができないため、立ち上げに失敗してしまいます。吸着剤を取り除かれることをお勧めします。

### 4. 餌の与え過ぎ

微生物の分解許容量を越えて餌を与え続けると分解しきれず失敗の原因になります。

週2～3日・回数は日に1回・量はすぐに食べきれる量を与えることをお勧めします。

生体はバクチャーで活性化された微生物などを食べているので餌は少なめで大丈夫です。

### 5. ポンプの故障

バクチャーは水の動きがないと機能しないため、ポンプが故障して水流が止まると失敗の原因になります。ポンプのメンテナンスは各メーカー説明書の通りに行ってください。

## 6. フィルターを洗い過ぎている

バクチャーを使うとフィルター部分に微生物が発生してきます。

バクチャー水槽ではフィルターは汚れを濾しとする物ではなく、微生物の住処になります。

その微生物が汚れを分解してくれるためフィルターを洗い過ぎると失敗の原因になります。

## 7. 生体を入れ過ぎている

生体を入れ過ぎるとそれだけ汚れが発生します。

微生物の分解許容量を越えてしまうと失敗の原因になります。

3~4匹から始めて徐々に増やしていく、分解許容量内で飼育されることをお勧めします。

## 8. 水ができるまでに餌を入れてしまう

微生物が水を作り上げるまでに餌を入れてしまうと失敗の原因になります。

生体を入れてから3日間は餌を与えないでください。

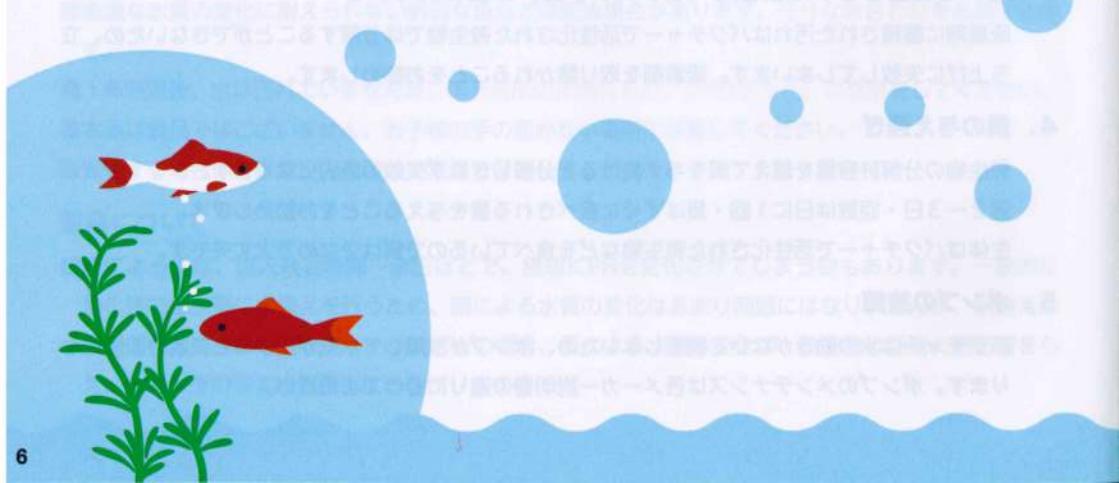
## 9. 薬剤を入れる

あらゆる薬剤は微生物の働きを阻害して失敗の原因になります。

PH調整剤、水質調整剤、カルキ抜き等は使用しないでください。

## 10. 微生物を入れる

バクチャーはその場の微生物のバランスを整えますが他の微生物資材を入れると、そのバランスが崩れてしまい失敗の原因になります。微生物資材は投入しないでください。



# Q & A

Q

バクチャーハには微生物は入っていますか？

A

バクチャーハに微生物は、入っておりません。

バクチャーハはその場にいる微生物を活性化するものです。

Q

一週間餌を食べなくても大丈夫ですか？

A

魚はバクチャーハによって増殖した微生物を摂取しているため大丈夫です。

一週間後はとても餌食いがよくなりますが、与えすぎにはご注意ください。

Q

バクチャーハ設置後に餌をあげないのはなぜですか？

A

バクチャーハ設置後は水質変化を伴いますので、余計な負担を微生物に与えないためです。

Q

2週間程度で魚臭がし、水泡が出てきました。どうしたらいいですか？

A

魚臭や泡が出てきたのはろ材や底砂の洗浄が不十分だったと思われます。

泡は残留した有機物を微生物が食べた証拠です。

半分程度の水換えをし2～3日程度餌を与える様子を見てください。

特に汚れがひどい場合数回水換えが必要になる場合があります。

Q

外部フィルターの場合の設置方法はどうしたらいいですか？

A

バクチャーハに直接流水が当たるように外部フィルターに設置してください。

接触効率が悪くなるとバクチャーハの効果が現れにくくなります。

Q

水中フィルターの場合、設置場所はどこにしたらいいですか？

A

上部フィルター等に比べると、水の動きが悪くなるためお勧めしておりません。

Q

ポンプを使用せずエアのみでも使用可能ですか？

A

エアのみの使用はお勧めしておりません。上部フィルター、外掛フィルター、水中ポンプなどで水流を作りバクチャーハと接触させ、浄化効率を高めることをお勧めしております。

Q

バクチャーハ使用時にろ材は洗わない方がいいですか？

A

マット上に茶色の汚泥状の物が付着しますがこれは微生物が定着した証ですので3～4ヶ月に一度、軽く水洗いしてください。



**Q バクチャーボディーは洗ってもいいですか？**



**A** バクチャーボディーは決して洗わないでください。浄化能力を阻害する場合があります。袋の中の黒い粉も水とよく混ぜ、すべて投入してください。



**Q 薬剤使用後バクチャーを使用できますか？**



**A** 薬剤の使用により微生物が死滅する恐れがあるため薬剤の効果が薄れる期間を待つていただきその後、水槽の掃除、水換え後にバクチャー使用をお勧めします。



**Q カルキ抜きの使用はいいですか？**



**A** カルキ抜きの薬剤は微生物を死滅させる恐れがあるため、使用しないでください。気になる方は、一日置き水をした水をご使用ください。



**Q 亜硝酸が高いですが大丈夫ですか？**



**A** 亜硝酸が高い時は、最初の掃除が不十分だった場合が多いです。水槽内をよく洗い2/3の水換えをお勧めします。



**Q 硝酸塩が高いですが大丈夫ですか？**



**A** バクチャーを使用している場合は硝酸塩の数値は特に気にしなくて大丈夫です。ただし、硝酸塩で影響を及ぼす生体飼育では、2~3ヶ月で半分程度の水換えをお勧めしております。



**Q PH調整剤の使用は大丈夫ですか？**



**A** バクチャーの使用でPHの変化はありませんが、餌の与えすぎによって酸性に傾く場合があります。餌の中止で中性に戻りますのでPH調整剤等の使用はおやめください。まれに、酸性やアルカリ性に傾く餌がありますのでその場合は別の餌に変えてください。



**Q 藻が出るのですが？**



**A** バクチャーを使用すると水環境が整い富栄養化による藻の発生を抑制できます。改善できない場合は以下のことが考えられます。

※餌の与えすぎ・長時間光が当たっているなど。

- 餌はすぐに食べられる量だけ与えてください。  
(食べきれなかった分は取り除いてください)
- ライトを当てている場合、長時間当てないようにしてください。
- 直射日光が当たっている場合、水槽のフィルムなどを貼るまたは直射日光の当たらない場所に移動させるなど工夫してください。



**Q バクチャーを使用中、薬剤・水質安定剤等の使用は大丈夫ですか？**



**A** 基本的に薬剤・水質安定剤等の使用はお勧めしておりません。病気の場合は別水槽での薬浴をお願いします。